

特集

「見学」

Reality of Kensetsu Komachi

を超えて

「体感」

する

けんせつ小町
のリアル

けんせつ小町活躍現場見学会2019

建設現場で働くけんせつ小町たちの仕事ぶりを、女子小中学生に間近で見て、体験してもらう「けんせつ小町活躍現場見学会」。今年で5回目となる夏休み恒例のイベントが全国18の現場で開催された。「見学会」と銘打ってはいるが、見て記憶にとどめるだけではなく、体を動かし、重機や工具に触れ、躍動する現場を全身で感じるプログラムが各見学会場で繰り広げられた。

過去のアンケートでは、参加者から「初めての体験」「楽しかった」といった感想が多く寄せられているが、その経験、記憶を持続的に将来へつなぐことができるか。これからの見学会の大きな課題の一つだ。

今回は、マンションの建設現場で5名の女子中学生が「現場監督」の業務を体験した見学会のレポートに加え、4年前の第1回目の見学会に参加し、当時のけんせつ小町と再会を果たした高校生の声を通し、その開催意義を探ってみる。





初めて身に着けた現場のユニフォーム。けんせつ小町に安全帯を付けてもらう。



作業用エレベーターで最上階へ。普段利用するエレベーターとは違って少しドキドキ。



参加者からの質問に、けんせつ小町が熱心に答える。



発泡ウレタンにゲージを差し込み、40mmの厚さを測る。

と本物のけんせつ小町と見分けがつかないほどの堂々とした佇まいだ。見学会は建設現場で楽しみながら、建設業の仕事の内容や役割を知ってもらうことが前提だが、そこにとどまらず現場監督が日常的に行っている業務をじかに経験したい、そうした意気込みが言葉の端々から伝わってきた。五名の参加者全員が現場監督という言葉は知っているものの、業務内容までは理解していない。コメントからはその実務に触れてみたい、知りたいという意志が感じられた。

最終的に鉄筋コンクリート造二〇階建てになるマンションは、見学会当日には一七階まで建ち上がっている。二グループに分かれ、最上階から下層階へと現場を追っていく。A班の参加者三名とその保護者は、けんせつ小町の福山涼さん、重留遥さんとともに最上階に向かった。幅五メートルほどの作業用の細長いロングスパンエレベーターに乗り込み、ゴトゴトと上昇していく。建物側はほぼ完成形に近い下層階から、外装がまだ完了していない階へと、マンションの建築工程をさかのぼるように光景が流れていく。

数分するとガタンと音がしてエレベーターが止まった。ゲートが開くとそこは現時点での最上階となる一七階だ。六〇〇平方メートルを超える施工ヤードでは鉄筋工事が行われている。参加者は視界を遮るものがない広大なエリアに目を見張る。例えばマンションのワンフロアを見渡すという機会はあるものではない。目の前にそびえるタワークレーンが目にもぶしい。福山さんがクレーンの役割や、鉄筋工事の作業手順を説明してくれた。参加者は、炎天下のなか手作業で次々と鉄筋を組んでいく技能者の姿に感心しきりだった。

マンションはこうやって出来上がっていくんだ
最上階から下層階に向かって移動
「発泡ウレタンは断熱性が高いため、冬の冷気や夏の熱気を遮断して、室内のエアコン効率を上げるので省エネになります。厚さもこの建物では四〇ミリと決められています」と福山さんが説明。「施工が終わる度にきちんと規定通りになっているかを確認するのも、私たち現場監督の大切な仕事の一つです。一緒にウレタンの厚さを確かめてみましょう」



建設現場で必ず行われる「朝礼」を模して、参加者とけんせつ小町たちが元氣よく自己紹介をした。

女子中学生たちが「現場監督」を体験
施工計画の立案から、工程や施工品質の管理までを担い、技術的な指導も行う。それが建設現場における「現場監督」だ。オーケストラの指揮者にもたとえられる現場監督の実務を5名の女子中学生が体験、すぐそこにある未来を描く糧とした。

一日限定！
現場監督の仕事を体感

小学生に比べて、より将来像を描きやすい中学生を対象に、実践的な実務体験プログラムに特化した「けんせつ小町活躍現場見学会」が開催された。参加者は、限定五名。中学生のみを対象とした現場は過去に例がなく、今年全国で行われた一八会場の見学会の中でも、特徴的なプログラムだ。

宮城県・仙台市内で施工中の日本国土開発㈱のマンション建設現場で開催された見学会は、五名の女子中学生による「現場監督体験」。近年、小中学校では自ら進路を決める主体性や、働くことの意義、職業観を実践的な機会を通して育む「キャリア教育」が実施されている。そうした背景を踏まえ、実際の建設現場で、施工に関わる技術的な業務を体験するために催された。コンクリートを使った工作など、従来の「お仕事体験」はあえて実施しない。あくまで現場監督を体感することを目的とした見学会だ。

当日、工事事務所に参集した女子

中学生には女性用の作業服とヘルメット、安全靴が配布され、女子職員専用の更衣室で作業服に着替えた。参加者の表情はまだ硬い。日本国土開発の四名のけんせつ小町たちにも緊張感がにじんでいたが、施工概要の説明や安全指導が進むにつれ、少しずつ空気が和んでいった。

見学会は、普段現場で毎日行われる「朝礼」体験から始まった。朝礼は、当日の工程や重点業務、注意事項などを全員で報告、確認し合う重要な日課だ。現場によっては昼礼、夕礼と複数回行われることもある。この朝礼の重要性と緊張感を体感する。この日は参加者、保護者、そして実際に施工に携わる職員が一堂に会して列をつくり、一人ずつ大きな声で自己紹介をした。中学生たちは学年と氏名、そしてこの見学会に参加した目的を発表した。「建設業の仕事をもっと詳しく知りたい」「実際の監督さんの業務がどんなものなのか、とても興味があった」「マンションが出来上がっていく過程をしっかりと見てみたい」と、口々に抱負を話してくれた。中学生ともなると体つきも大人と大差はない。ともする



「現場の一人ひとりが重要な役割を担う。そのチームワークの中心にいるのが現場監督！」
(中学2年生)

「決められた業務を周囲に伝えるだけじゃない。工程を考えながら責任をもって指示を出す大変な仕事なんだね」(中学2年生)



「建設現場でタブレット！最新技術が建設業を変えているんだ」
(中学2年生)



と、参加者に針状のゲージを配る。各自ウレタンにゲージを差し込み、既定の厚さに施工されていることを確認した。

更に、ボード貼りの作業を見学。重たいボードを軽量鉄骨に貼っていくその手際の良さに驚きを隠せない。むき出しのダクトやケーブル、軽量鉄骨の頑丈さやボードの大きさ、重さにも興味津々だ。七階の住戸は全面のボード貼りが完了し、壁紙を施工している工程だ。「部屋」らしくなってきた。ボードのいたるところに白い塗料が塗られている。一人の参加者が手を上げて

質問。「ボードの白い跡は何ですか？」「ボードを留めるビスや細かい傷を平らにするために塗っています。このパテを塗っておかないと壁紙を貼った後にデコボコになっちゃうから」という福山さんの答えに納得した様子だった。居室が出来上がっていき細かい工程に、参加者たちは目を輝かせる。そしてその一つひとつの工程を管理する現場監督の仕事をも、身をもって理解していく。

最後に三階の居室で内装検査を体験する。この現場では検査にタブレット端末を採用している。端末には各住戸のデータが収められており、検査結果をその場で入力することができるとのこと。100号室リビング、天井に近い西側の壁にキズといった具合に、自身の発話で音声入力することも可能だ。参加者は各自タブレットを手に部屋を巡る。床や壁に目を凝らし、キズや汚れをチェックしていく。すぐにタブレットの操作をマスターし、次々と内装検査をこなしていた。IT機器が建設現場でも日常的に導入され、最後には人の目でも厳格に施工品質がチェックされていることに関心を寄せていた。

未来の建設業界で待っています

一時間ほどで順調に見学ルートを回り、再び工事事務所に戻る。少々疲れた表情を見ながらも、どの顔も満足げだ。各自の感想を発表する時間には、「女性にとっては大変なこと多いと思うけれど、だからこそやりがいのある仕事だと感じた」「現場監督の仕事は本当によくさんあると思った」「建設現場は男性中心のイメージがあったけれど、女性も活躍していることがよく分かった」と、見学会で得たそれぞれの貴重な気づきを話してくれた。

最後に遠山文行所長が挨拶に立つ。「この現場ではけんせつ小町たちが活躍できるよう一生懸命応援しています。皆さんも今日の経験を糧にして自分が活躍できる将来の仕事を見つけてくださいばうれしい。もちろん、私たち建設業界でも皆さんのことを心からお待ちしています」。会場が笑顔に包まれた。開催初年度より五年連続でこの見学会に参加しているという中学二年生は、二月にカンボジアへ旅行を

した際のエピソードを話してくれた。「日本の建設会社が整備した道路は、他国が施工した道路と違って何十年経っても壊れることがなくて、キングスロードと呼ばれているんです。日本の技術はホントにすごいって地元の人に褒められたんですよ」と、自分のことのように誇らしげに笑った。

現場と、そこで活躍するけんせつ小町、現場監督のリアルを体感した女子中学生たち。この経験がすぐそこに見える彼女たちの将来に与えるインパクトは小さくないはずだ。



未来につながる「興味」と「憧れ」を育む

第1回のけんせつ小町活躍現場見学会に参加した、当時小学6年生だった大倉波奈さん。その4年後の今夏、高校生になり、改めて建設業界の最前線に触れ、あの時のけんせつ小町と再会を果たした。



2015年の見学会（左上）から4年ぶりに再会した大倉さん（右）とマイさん（左）。

建設業の魅力に再会する日

「今日から夏休みなんです。初日にマイさんとまた会えるなんて。今日は本当に楽しみにしていました」。まだ梅雨が明けない七月下旬、高校一年生になった大倉波奈さんはそう言いながら待ち合わせ場所に現れた。「マイさん」とは、二〇一五年に江東ポンプ所江東系沈砂池棟建設工事現場で行われたけんせつ小町活躍現場見学会で、大倉さんを引率した清水建設（株）のけんせつ小町、マイ・ティホンさんだ。大倉さんはこの見学会でマイさんと出会ったことをきっかけとしてけんせつ小町への憧れを抱く。

という。今回、見学会で芽生えた興味と憧れをより深めてもらうようと、清水建設技術研究所で最先端の建設技術を見学。その後、同社でマイさんと再会する機会を設けた。

未来の海上都市を一緒に造ろう

東京都江東区越中島にある清水建設の技術研究所のエントランスに入ると、すぐに大倉さんが、この施設に設置された免震装置に気付き、声を上げた。「あの装置、知っています。地震による建物の揺れを抑える装置ですよ。テレビで見たことがあります。すでにワクワク感があふれんばかりだ。

建設業への興味が膨らみ続けた大倉さんは、二〇一七年には日建連主催の「市民現場見学会参加者三〇〇万人達成記念現場見学会」に参加。新国立競技場整備事業の現場を訪れ、三〇〇万人目の参加者として記念の金メダルを授与されている。今でもゼネコンのテレビCMや建設の特集番組に見入ってしまう。業界への興味は未だ尽きない

応接スペースで技術広報担当の石山弘美さんから研究所の概要説明を受けた後、施設内を見学。最初に目にしたのは海上に浮かぶ環境都市「グリーンフロート」の模型だ。直径三、〇〇〇メートルの人工島に、高さ一、〇〇〇メートルのタワーがそびえる。「海面上昇で沈んでしまうかもしれない島国があるでしょう？ そうした国々を救う手立てでもあるん

です。月の赤道上に太陽光発電パネルを敷き詰めて、地球で使う電気を賄おうとする構想も研究中。そのどれもが夢物語ではなく実現を目指した構想なんです」と石山さんが説明してくれた。「海上都市とか月面施設とか、いつか行ってみたいですね」と感想をもらす大倉さんに、石山さんがすかさずこう返す。「一緒に造りましょうよ！ 清水建設ならできるかもしれませんよ。二人の笑い声が響いた。

テレビの映像を超えた建設技術を体感

先端地震防災研究棟は巨大地震の揺れを再現する大型振動台を備える。白い床壁に囲まれた空間は研究施設というよりSF映画に登場する宇宙船の船内の趣だ。ここでも二人の会話は尽きない。「この振動台で震度七の地震も再現できます」「震度七ですか。体験したことがないです」「立てないくらいのごい揺れなんですよ」「でも、テレビ番組で台の上に置かれた建物が揺らされる映像は見たことがある。

大丈夫のかなと思っていたけれど、なるほど、こうした施設の中での実験だったんですね」。その後も建設ロボットの開発を担うロボット実験棟や、自然環境を再現したビオトープなどを見学した。テレビやインターネットの「映像」と、自身の手で触れ、目で見たい「体感」が大倉さんの記憶の中で置き換えられていくようだった。

最先端オフィスビルで見た建設業界のもう一つの側面

東京都中央区京橋の清水建設本社ビルは先端技術を駆使し、環境性能とBCPを追求した同社のモデルオフィスともいえるビルだ。竣工は二〇一二年。そびえるビルを大倉さんがまぶしそうに見上げる。エントランスから長いエスカレーターで二階ラウンジへ。打ち合わせスペースのテーブルは、どこもほぼ満席だ。会議室で待っていたのは現在土木設計部門に所属するマイさんと、人事部ダイバーシティ推進室の西岡真帆室長。目が合ったとたん声を立てて再会を喜び合った。

地震研究施設を研究所の技術広報担当の石山さん（右）と見学。その大きさに驚く。テレビやインターネットで見るとは存在感が違う。実物の振動台が本物の建設技術として記憶に刷り込まれていく。

見学会

Reality of Kensetsu Kamachi

Graffiti 2019

全国で開催された見学会の参加者から、今年もたくさんの絵日記を寄せていただきました。普段は見ることのできないホンモノの建設現場に触れた1日の大切な思い出が84枚届きました。その一部をけんせつ小町たちのコメントとともにご紹介します。

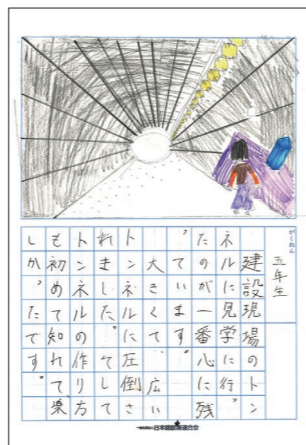


他の絵日記は、左記QRコードからご覧いただけます。また、7/27に開催した「みなとみらい21中央地区20街区MICE施設建設工事」での見学会の様子をまとめた動画も、ご覧いただけます。

7/23 外かく環状道路 本線トンネル(南行)東名北工事 鹿島建設株式会社



参加して下さった皆さんに少しでも建設業に興味を持っていただけたようでとてもうれしく思います。今は建設業も男性に限らず多くの人が活躍できる場所がたくさんあるので、ぜひ他の見学会にも積極的に参加してより建設業の魅力を味わってほしいです！



7/25 NHK新奈良放送会館建設工事 株式会社奥村組



参加していただき、ありがとうございました。現場見学や測量などのお仕事体験、クイズなどを通して、建設業との距離が少しでも縮まってくれていたら幸いです。また会える日を免震くんと楽しみにしています。



人工海上都市「グリーンフロント」の精緻な模型に見入る大倉さん。

本社ビルエントランスにて現役と未来の(?)けんせつ小町の再会記念ショット。左から人事部ダイバーシティ推進室の西岡真帆室長、マイさん、大倉さん、同ダイバーシティ推進室の檜垣友紀子さん。

西岡室長が、建設業の仕事は現場でのものづくりだけではなく、設計や研究開発など多岐にわたることを丁寧に教えてくれた。「もちろん営業部門もあります。お客様の声を聞いて、それをカタチにするためにご提案をする重要なセクションです」「営業さんがいるんですか。仕事は自然と入ってくるのかと思っていました」と驚く大倉さんの言葉に笑い声此起彼伏。

マイさんは大倉さんと見学会で出会った時のことをよく覚えていた。「高所作業車に乗って現場の全景を眺めてもらった時のことが印象に残っています。あの時はきちんと自己紹介もできなかったのですが、今日は自分のことを少しお話ししますね」と自らの来歴を教えてくださいました。

ベトナム出身のマイさんが来日したのは二〇〇七年。二年間、岩手県・盛岡の日本語学校に通うなかで日本の高度なインフラに魅かれ、大学では土木学科を専攻し、コンクリートの研究などに励んだ。清水建設へは二〇一五年に入社。大倉さんと見学会で出会ったときは入社ホヤホヤの新人だった。現在は土木

技術本部で仮設構造物の設計に携わる。大倉さんは一人のけんせつ小町のキャリアに興味を募らせているようだった。「設計の仕事で大変ですか?」「大学や会社での『研究』ってどんなことをするんですか?」。矢継ぎ早に質問を繰り返す。「見学会の時は男性と一緒に現場に立つけんせつ小町の姿に漠然と憧れていました。ユニフォーム姿じゃない今のマイさんも素敵だなんて」。大倉さんはそう話してくれた。

「なりたい自分」を探してキラキラした建設業界へ

けんせつ小町活躍現場見学会に初年度から携わってきた西岡室長はこう話す。「今回、大倉さんが訪ねてきてくれると聞いて本当にうれしくて。マイさんに伝えに行ったら彼女も喜び余って泣いちゃってね。見学会を続けてきて良かったと心から思いました。ちゃんと伝わっていたんだって。これからも大倉さんの夢や希望が広がっていくことを願っています」。

マイさんもメッセージを送って

れた。「私も進路のことを考え始めたのは高校生の頃。大倉さんは今の時間を大事にして、たくさんの方に興味を持って『なりたい自分』を探してください。自分のことをしっかりと見極めていけば必ずと進むべき道が見えてくると思うんです。頑張ってください」。

大倉さんも最後にこう話してくれた。「友達や自分も含め、若い人たちは『キラキラした仕事』に憧れを持っているように感じます。今日分かったことは建設業にもキラキラがあるということ。建設業にはいろいろな仕事があるんですね」。

見学会で現場に触れてきた大倉さんには「建設業＝現場」というイメージが定着していた。その印象が今回、大きく変わった。「現場」を支える背後には研究開発、設計、営業といった幅広いフィールドがあることを知ることができただろう。大倉さんの建設業に対する興味と憧れが、より深く、より広く、育まれていくことに一同期待を寄せていた。そしていつの日か、建設業界でキラキラと笑顔で働く大倉さんに再々会したい。

8/1 西部処理場北系水処理施設築造工事(土木)
戸田建設株式会社



この見学会に参加してくれた皆さんのなかで、いつか何かの拍子に、心のどこかに眠っていたこの日の思い出が目覚まして進路選びに役立ってくれたら最高だと思います。ご参加いただきありがとうございました。



8/5 (仮称)福島7丁目
ホテル計画
株式会社鴻池組



「おもしろかった」と口をそろえて言ってくれ、みなさんに楽しんで参加していただけてうれしく思います。今回の見学会を通じて、建設業における女性の活躍を知り、将来多くのけんせつ小町が生まれ、活躍されることを楽しみにしています。

8/2

(仮称)海老名駅間
マンション計画新築工事
三井住友建設株式会社



初めての工事用エレベーターや屋上からの景色が特に興味深かったようで、笑顔で見学してくれてうれしかったです。ありがとうございました。今後、街なかの工事現場や高い建物を見たときに、見学会のことを思い出し、建設業の仕事により一層興味を持ってほしいです。

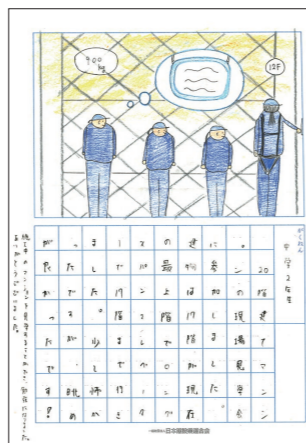


8/3

(仮称)プラウド堤通雨宮
町III計画新築工事
日本国土開発株式会社



現場見学会に参加していただき、みなさんありがとうございます。マンションの出来上がり方を順番に見学したり、仕上げ検査のお仕事体験をしたりしたこの見学会を通じて、建設の仕事により一層興味をもってもらえたら、私たちはとてもうれしいです。



7/30

北陸新幹線、
福井下叻生田高架橋工事
佐藤工業株式会社



とても暑い中、見学会にご参加いただきありがとうございました。ドローン操作や職人さんのお仕事体験では、みんなのすてきな笑顔が見られて良かったです。新幹線に乗れる日が早く来るようお姉さんも頑張ります。楽しみに待ってね。

7/31

東京港クルーズ・海の建設現場見学
五洋建設株式会社



普段、陸上からは見ることができない海の工事現場を船から一緒に見学し、真剣に説明を聞いていただき、たくさんの質問をもらい、私達もとても楽しい時間を過ごせました。少しでも土木や建築について興味を持てただけならうれしく思います。

恵比寿西二丁目
複合施設建築工事
東急建設株式会社



素敵な絵日記をいただきありがとうございます！皆様に体験、ご覧いただいたことは現場にある沢山のワクワク(魅力)の一つに過ぎません。皆様にとって建設業がより身近で、笑顔とワクワクを感じてもらえるものになれば大変うれしく思います！



7/27

みなとみらい21中央地区
20街区MICE施設建設工事
竹中・小保建設共同企業体



「見学会に来てよかった」「建築家になりたい」といったみなさんの絵日記を読んで、建設業の魅力を伝えることが出来て良かったと思っています。建設現場が女性でも十分に力を発揮できる職場だと感じてもらえたらうれしいです。



8/20 29-堺市原池公園[第3期]野球場建設工事
前田建設工業株式会社



朝の雨が嘘のようなお天気ですとても暑い中での見学会でしたが、笑顔でドローンに手を振り、真剣な表情で墨出しをしている姿が印象的でした。絵日記で「楽しかった」の感想がたくさんありうれしかったです。将来のけんせつ小町の活躍が楽しみです。



8/7 29-新千里東町団地先工区建設工事
青木あすなろ建設株式会社



見学会へご参加いただきありがとうございました。皆さんの真剣な眼差しを見ていると、建設業界を目指していた頃を思い出し、初心にかえることができました。今回の体験が心に残る夏休みの思い出となればうれしく思います。



8/22 内径1200配水管
シールド工事(四期・羽津)
安藤ハザマ・高砂・矢野
特定建設工事共同企業体



参加した小中学生のみなさんから絵日記やアンケートで、たくさん「楽しかった」という感想をいただき、とてもうれしく思います。これを機に建設業界に興味を持ち、「将来は建設現場で働きたい」と思う子供たちが増えたら良いと思います。



8/21 トヨタ紡織株式会社
体育館建設工事
清水建設株式会社



壁の塗装や外構植栽など、竣工後にも残るお仕事体験を実施しました。「将来建設業で仕事をしたい」という感想が子どもたちから寄せられ、うれしく感じています。「けんせつ小町」として活躍する姿に再び会えることを楽しみにしています。

8/9 赤坂迎賓館前公園施設
(仮称)新築(18)建築その他工事
鉄建建設株式会社



とても上手な絵日記をいただき、ありがとうございます！ お仕事体験をしているみんなの真剣な顔と楽しそうな笑顔を見ていたら、私たちが「ものづくり」が好きでこの道を選んだ気持ちを思い出さることができました。私たちにも楽しい夏の思い出になりました。

8/8 高松赤十字病院新東館
(仮称)建築等工事
株式会社大林組



こういった見学会の開催は四国では初めてでしたが、初めて入る建設現場や工具を使用して体験したお仕事に少しでも興味を持ってもらえたなら、大成功です。女の子に限らず、将来、私たちと一緒に働くメンバーをお待ちしています。ご安全に！



8/23 (仮称)練馬区北町三丁目
賃貸マンション計画
飛鳥建設株式会社



当日は雨が降っていましたが、お越しいただいた参加者の皆様には大変感謝いたします。建設業や当現場についての説明・フォスランド制作・測量体験・リフト体験等、お子様たちの夏休みの1日の記憶に残っていただけたら何よりです。



8/9 高速横浜環状北西線
シールドトンネル(港北行)工事
大成建設株式会社



見学会に参加いただき、ありがとうございます。今回は私たちが「建設」している高速道路のトンネルを見学してもらいましたが、みんなのお家や学校のまわりにも、「建設」はたくさんあります。ぜひ探してみてください。

